

SDGsに係る社会的な傾向や地域の現状について

【各種アンケート調査の結果について】 参考資料：各種アンケート調査結果より

全国を対象としたアンケートについて

出典：株式会社電通 第4回「SDGsに関する生活者調査」(電通 Team SDGs)

- ・SDGsの認知度は54.2%で、10代の男女ではともに7割を超え、学生の認知度は76.1%。
- ・認知度の高い10代と30代は、SDGsについて行動することに抵抗を感じにくい。
- ・認知度が同程度でも、より若い世代の方が、SDGsについて行動することに抵抗を感じにくい。
- ・SDGsの認知経路が、情報Webや新聞からテレビに変化し、授業や業務でSDGsに触れることがない人でもSDGsを認知する機会が増加している。

多摩・島しょ地域を対象としたアンケートについて

出典：「公益財団法人東京市町村自治調査会によるアンケート調査」

- ・多摩・島しょ地域のSDGs認知度は4～5割、関心がない理由は「わからない」こと。
- ・SDGsに対する行動の阻害要因も「何をすればいいかわからない」こと。
- ・SDGsに関する「行動した」割合は低い一方で、現在に比べて今後「行動したい」という回答は増えている。
- ・社会貢献の意識が高いほどSDGsの認知や自治体の取組への参加意向が高い。

立川市の状況について

出典①：立川市第4次長期総合計画後期基本計画 出典②：第1回立川市SDGs推進委員会資料
出典③：令和3年度市政に関するアンケート集計結果(令和2年度実績)

- ・環境に配慮した取組については、既に9割程度の市民が行動しており、SDGsのゴールに貢献している。
- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方には81.3%がどちらかといえば否定的であり、女性の活躍の後押しが期待できる。
- ・地域貢献したい市民の割合は62.3%で、SDGsを通じて身近な取組を周知することで、行動の活性化が期待できる。
- ・最も入手したい行政情報は、防災・安全・安心に関する情報。